II. 分野別分担研究報告

１．世界の保健人材政策研究

研究要旨：

まずは WHO と連携し、保健医療分野における IPE 教育に関する研究を行った。そして、とりわけ途上国で IPE を推進する際の留意点を示した。またこの研究成果の一部は WHO ガイドラインにもりこまれた。さらにその成果を示すべく、2014 年の PMAC において IPE セッションをもった。次にアジア太平洋地域における MDG の進捗分析を行い、MDG のみによって開発の進展ははかり得るものではなく、国独自の発展の進捗を多彩な角度から分析し結果を示すことが、その国の今後の発展計画を作る上で有効であることを示した。この成果は Routledge 社発行のハンドブックに掲載された。最後に AAAH との連携を強化し、同地域のおける保健人材研究の推進に努めた。

A．研究目的

a. 保健医療分野での革新的教育ガイドライン作成

2011 年以来、革新的教育（Transformative Education）のための WHO ガイドライン作成のコアメンバーとなった。教室スタッフを動員して、ガイドライン作りに参画し,多職間教育 (Interprofessional education, IPE) 推進のための文献レビューを行うことを目的とした。

b. 途上国における IPE 推進研究

上記より IPE の実践も研究も、ほとんど先進国でしかなされていないことがわかった。そこで文献レビューを行い、わずかながらも途上国でなされている IPE 研究についてまとめ、かつ先進国における IPE 研究から、途上国は何を学びうるかについての要因を特定することを目的とした。

c. アジア太平洋地域における MDG の進捗分析

香港中文大学の企画による Routledge Handbook of Global Public Health in Asia の出版にあたり、分担執筆者として、アジアの低所得国における MDG 達成の状況と問題点を分析することを目的とした。

d. アジアにおける保健医療従事者偏在分析・民間保健医療教育機関の質の分析

アジア太平洋保健人材連盟（The Asia Pacific Action Alliance on Human Resources for Health, AAAH)と協力して、保健人材に関する多国間研究を実施した。第 1 の研究内容は保健医療従事者偏在分析、第 2 はアジア諸国で乱立する民間保健医療教育機関の質の分析である。

B．研究方法

a. 保健医療分野での革新的教育ガイドライン作成

IPE の文献レビューを行った。この分野では RCT 研究が少ない。そこで、観察研究においても十分意味のある研究（効果の程度が大きく、考えられるすべての交絡が提示された効果を減らす方向に働き、用量反応関係が明らかな場合）をとりあげる GRADE システムによる分析評価を行った。GRADE とは Grades of Recommendation, Assessment, Development, and Evaluation の略である。これによって文献レビューによって得られた推奨項目（recommendations）を強いか、弱いか、あるいは条件付き（Conditional）かに分け、かつエビデンスの質を高・中・低・非常に低の 4 つに分類する。これによって、エビデンスの質が RCT 研究より低いとしても、観察研究の方がエビデンスの実際の活用現場ではより有用との判断が

可能になる。

b. 途上国における IPE 推進研究

系統的文献レビューを行い、2,146 本の論文のうち、選択基準に合致した 40 本を解析した。

c. アジア太平洋地域における MDG の進捗分析

まず第 1 に MDG 開始時代にアジア太平洋地域の低所得国でありかつ MDG に揺れ動かされた国の代表国としてラオスに注目し、ケース・スタディを行った。次いで、アジア太平洋諸国における低所得国 13 か国の MDG 達成度と成功要因･失敗要因に関する文献レビューを行った。第 3 に、MDG 達成のための克服課題について検討し、最後に Post2015 開発アジェンダについての提言を行った。

d. アジアにおける保健従事者偏在分析･民間保健医療教育機関の質の分析

まずは、各研究課題について、アジア太平洋諸国から各 5 か国によるプロポーザルを選出した。次いで、世界銀行、WHO などから研究資金を得て、1 次資料データの収集を行った。東大チームは研究計画への助言と論文作成の助言を行った。

C. 研究結果

a. 保健医療分野での革新的教育ガイドライン作成

IPE 関連の文献レビューにより「保健従事者の教育研修機関は学部教育においても大学院教育においても IPE を推進すべきである」との推奨文を作成した。ただし RCT などの研究は少なく、大規模な観察研究も少なく、エビデンスのレベルは低いものであった。また推奨の強さとしては条件が整ったところで進めるべき（Conditional）であるというものであった。

b. 途上国における IPE 推進研究

選択基準に合致した 40 本の論文のうち、2 本のみが途上国からのものであった。IPE の利点は周知されているものの、合計 10 種の課題や障害要因の存在が特定された。それらは、カリキュラム、リーダーシップ、資源、ステレオタイプや態度、学生の多様性、IPE のコンセプト、指導、熱意、専門用語、及び認定である。そのうち、カリキュラム、限られた資源及びステレオタイプについては、途上国の論文に既に記載されていることが分かった。

c. アジア太平洋地域における MDG の進捗分析

ラオスのケース･スタディでは、ラオスが「Off track」というレッテルを貼られてしまっていても、実は乳幼児死亡率の改善など、健康にかかわる複数の MDG の達成に成功していることが分かった。MDG が必ずしも国の保健・健康指標の改善を反映するものではないこともまた示された。

次に、アジア太平洋諸国の中の低所得国の MDG 達成度と成功要因・失敗要因に関する文献レビューを行った。13 カ国の各々について、７つの MDGs の下の 22 目標の進捗・達成状況を 4 段階に分けたところ、国別に得意・不得意分野があることが示された。

Post2015 開発アジェンダについては、Sustainable Development Goals の適用など、具体的な提言を行った。

d. アジアにおける保健医療従事者偏在分析･民間保健医療教育機関の質の分析

保健従事者偏在分析に関しては参加 5 カ国から 10 論文作成のプロポーザルがだされ、民間教育機関の質の分析に関しては 6 論文のプロポーザルがだされた。また研究の方法論に関する論文を一つ執筆中である。

D. 考察

a. 保健医療分野での革新的教育ガイドライン作成

IPE 関連の研究は先進国に多く、途上国ではあまりなされていない。しかし IPE は保健従事者の質をあげる可能性はあり、同時に多職種を教育できるという点において効率的でもある。しかしながらこれを途上国でも推進していくためにはより多くの研究がなされる必要がある。

b. 途上国における IPE 推進研究

IPE に関して報告されている 10 の課題や障害要因のうち、途上国で報告されているのは 3 種のみであった。しかし、他の 7 種についても、途上国で重要である可能性が高い。これらの課題や障害を事前に理解しておくことは、IPE を途上国で実施する準備のため、またプログラムを効果的にするために必須である。

c. アジア太平洋地域における MDG の進捗分析

MDG の達成度が低い・遅いとされている場合も、実際に進捗が遅いとは限らない。逆に、MDG の達成度が高い・速いとされているケースでも、進捗状況が思わしくない場合もある。「Off track」とレッテルを貼られてしまう途上国 MDG が必ずしも国の健康・保健の進展を把握していないことを理解すべきである。また、Post2015 開発アジェンダについては、途上国の健康・保健指標をより正確に把握するため、Sustainable Development Goals の適用など、新たな取り組みが必要である。

d. アジアにおける保健従事者偏在分析・民間保健医療教育機関の質の分析

3 年度目に結果が出る予定である。

E. 結論

これらの政策研究においては、まず保健医療分野における IPE 教育に関する研究を行った。そして、とりわけ途上国で IPE を推進する際の留意点を示した。またこの研究成果の一部は WHO ガイドラインにもりこまれた。さらにその成果を示すべく 2014 年の PMAC において IPE セッションをもち、神馬が司会した。

次にアジア太平洋地域における MDG の進捗分析を行った。その結果、MDG のみによって一国の発展のレベルははかり得るものではないこと、国独自の発展の進捗を多彩な角度から分析し、結果を示すことが、その国の今後の発展計画を作る上で有効であることを示した。この成果は Routledge 社発行のハンドブックに分担執筆として掲載した。

最後に AAAH との共同研究に関しては 3 年目に成果を示すことができる予定である。

F. 研究発表（別紙 4 参照）

a. WHO. Transforming and scaling up health professionals' education and training: World Health Organizations Guidelines 2013

b. Report on the 2014 Conference on Transforming Learning for Health Equity: Prince Mahidol Award Conference 2014

c. Sunguya BF, Hinthong W, Jimba M, Yasuoka J. Interprofessional education for whom? - challenges and lessons learned from its implementation in developed countries and their application to developing countries: a systematic review. PLoS One. 2014 May 8;9(5):e96724

d. Yasuoka J, Saito J, Saw YM, Sunguya BF, Amiya RM, Jimba M. Achieving the Millennium Development Goals- Relevance for low-income countries in Asia Routledge handbook of Global Public Health in Asia. p. 25-38. Routledge. 2014.

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし